



## 那須平成の森フィールドセンターの取り組み

那須平成の森は、質の高い自然ふれあい推進（インタープリテーション）の計画、実践、人材育成等を通じ、将来的に全国の自然ふれあい施設のモデルとなることを目指しています。

以下に、那須平成の森フィールドセンターで行っている取り組みを紹介します。

### ●インタープリテーション計画

「インタープリテーション計画」とは、那須平成の森における「自然ふれあい推進（インタープリテーション）」を進めるために、関連する様々な要素を包括的に整理した全体計画です。

これは、当施設におけるインタープリテーションの普及啓発や広報の目的、テーマを明確に文章化し、展示や印刷物も含んだ全てのプログラム、広報媒体を関連付けて整理したものです。アメリカの国立公園ではこのような計画に基づいて、それぞれの公園で独自に運営されています。

しかし、日本国内を見ると、インタープリテーション計画が必ずしも十分に立案されていないのではないかとされています。

本計画では類似施設におけるインタープリテーション計画の事例になることを目指しています。計画の詳

細については、機会をみてご紹介していきます。

### ●多彩なプログラムを毎日実施

通常実施しているプログラムとしては、事前予約制のガイドウォークと当日受付のミニプログラムがあり、ガイドウォークは午前2ツアー、午後2ツアーの4ツアー（9月からは他に1時間コースも追加予定）。ミニプログラムは一日6回実施しています。



## プログラムの事例紹介

### インタープリターとあるく那須平成の森ガイドウォーク

所要時間約3時間。毎回テーマを持って実施しています。以下はその一例です。

テーマ：平成の森の中には多様な森の環境があり、そこには多様な生物（種や個体）が生きている



### ふれあいの森 30分無料ミニプログラム

自然素材を使った表現活動「私だけの家紋づくり」「あなただけの茶臼岳」。葉っぱを通して見る森の不思議「葉っぱのイメージ」「発見！チャームポイント」。天然記念物ヤマネの視点で森を体験する「シル・シュル・ヤマネ」。聴いてふれて知る「那須の自然と歴史ミニガイドウォーク」など、現在ラインナップの充実を図っています。

今まで気に留めていなかった事や、なんとなく知っていた事などをプログラムの体験を通して改めて気づくことで、短時間でも、自然に目を向けるきっかけづくりになり、那須平成の森をより楽しんでいただいています。



「私だけの家紋づくり」  
（※参考：キープ協会、CES）

### 団体向け自然体験プログラム

9月以降は、主に学校団体対象の自然体験プログラムを実施します。

1～3時間程度のプログラムをオーダーメイドで受託いたします。



## 5月22日に開園しました ガイドウォーク特別編



5月11～12日の内覧会では地元の観光関係者、教育関係者、そして福島県から避難されている方々を招待、プログラムやガイドウォークを体験していただきました。



5月21日、地元自治体や関係機関、観光関係者70名に開園にいたるまでの報告会を行ったあと、園路内を散策しました。



5月22日、那須町の高久勝町長による「那須元気！宣言」にはじまる記念行事と那須町の小学生を招いての特別プログラム。午後からは一般参加者へのガイドウォーク。1000名の来園者の皆様とともに那須平成の森が開園しました。



「特別編」は季節ならではの見所をテーマにして、6時間歩く那須平成の森をたっぷり楽しむロングガイドです。第1回は、栃木県をはじめ、東京都、千葉県、茨城県など、関東各地から16名の方にご参加いただきました。

那須の自然に魅せられた方が多く、那須平成の森を歩けたことと、その自然の豊かさに感動された様子でした。ツツジも花のピークを過ぎ、新緑が繁って思ったほど夏鳥を見ることはできませんでしたが、のんびりゆったりと時間をかけて歩けたことに満足の様子。秋の紅葉のシーズンにまた訪れたいとの声も聞かれました。



旬の自然についての解説



## 森林管理プログラム※

6月19日、那須町の方を中心に12名の方にご参加いただきました。二次林と原生林が入り混じる森としてはまだまだ若いふれあいの森、その現状を観察することからプログラムはスタートしました。

木漏れ日が美しいものの広葉樹の密集度は高く、樹木の生長を促すために伐採する木の選木から参加者に体験してもらいました。さらに間伐、運び出しまでの作業をチームで話し合いながら行いました。終了後には「このままの自然体系を残していきたい」

「生きものにとって暮らしやすい森でありたい」の声。参加された一人一人にとって大切な森となったようでした。



間伐作業を行う参加者

※今年度は両プログラム共、試行的な実施となります。本格的な実施は来年度からの予定です。



## モニタリングプログラム※

6月26日、森林モニタリング調査プログラムを実施しました。12名の方と共に午前中は那須平成の森に生えるミズナラやナツツバキなど約20種の樹木の枝葉の標本作り、午後は設定した400㎡の調査区に生えるすべての樹木の樹種と胸の高さでの直径を調べました。

植物の記録は、生態系の根幹をなす情報です。参加者とともに森林を科学的な目で見る調査をしながら、多くの種の樹木が競争しながら混在している那須平成の森をあらためて実感しました。



調査区を作る参加者